

第六次竜王町総合計画策定のための町民意識調査結果の概要

《調査概要》

- 調査期間：令和2年1月～2月
- 調査方法：郵便（調査票を郵便にて配布・回収）

配布数	回収数	回収率
2,500 票	1,042 票	41.7%

《主な調査結果》

① 回答者について

- 家族構成は「二世帯同居（あなたと子ども）」に次いで、「三世帯同居」が多い
- 竜王町に居住したきっかけは「結婚（事実婚含む）」「住宅の購入」
- 居住地として竜王町を選んだ理由は「家族等が近くに住んでいるから」「自然環境がよいから」
- 通勤・通学先は「竜王町町内」が3割程度、「滋賀県内（竜王町以外）」が5割以上

② 竜王町の愛着度

- 『竜王町が好き』（「好き」「どちらかといえば好き」）が8割
- 竜王町の好きなところ（自慢できるところ）は年代別、性別、小学校区別いずれも「山、川や田園風景などの自然環境」
- 竜王町の好きではないところは「公共交通が不便」「商業施設が少なく買い物が不便」「河川氾濫などの災害が不安」
- 好きではないところの「河川氾濫などの災害が不安」は50歳代以上で2割以上

③ 生活の困りごと

- 現在の困りごとでは、「徒歩・自転車で行ける場所に行き場や金融機関、郵便局、医療機関がない」「台風・集中豪雨・地震などの災害」
- 10年後の不安は、「親やあなた自身の健康・介護」「徒歩・自転車で行ける場所に行き場や金融機関、郵便局、医療機関がない」「親やあなた自身の老後の移動手段」
- 将来の不安の「親やあなた自身の老後の移動手段」は65～69歳で5割以上と最も高い

④ 10年後の竜王町のイメージ

- 10年後の竜王町にどのようなまちであってほしいかについて、「便利さ」「安全・安心」「経済的な豊かさ」が高い
- 「便利さ」では交通や買い物面の充実を求める意見が多く、「安全・安心」では災害対策や事故防止などが多い
- 10年後の理想的な竜王町を実現するために町民としてと取り組みたいことは、「地域（住民参加・コミュニティなど）」「自然・環境（環境保全、環境美化など）」が多い

⑤ 定住意向

- 『住み続けたい』（「ずっと住み続けたい」「どちらかといえば住み続けたい」の合計）が7割以上
- 定住したい理由は「住みなれたまちだから」「家や農地などの財産があるから」が高い
- 移住したい理由は「公共交通での移動が不便」「商業施設などが少なく買い物が不便だから」「地域活動が大変だから」
- 定住・移住を促進するために効果があると思う取り組みは「鉄道駅など周辺地域への移動手段の充実」「医療環境の充実」「日常の買い物（商業施設）の充実」「子育て環境の充実」

⑥ 今後力を入れるべきこと

- これからの10年間で特に重要になるものは「高齢者の虚弱（フレイル※）対策など介護予防の充実」「職場や地域における高齢者の活躍」「IoT※やAI※などの新技術の活用」

※IoTとは、Internet of Things（モノのインターネット）の略。パソコンやスマホなどの情報通信機器に限らず、様々なモノがインターネットにつながり、より便利な生活やビジネスにつながる仕組みのこと

※AIとは、Artificial Intelligence（人工知能）の略。コンピュータがデータを分析し、推論（知識を基に、新しい結論を得ること）や判断、最適化提案、課題定義や解決、学習（情報から将来使えそうな知識を見つけること）などを行う、人間の知的能力を模倣する技術のこと

※フレイルとは、「加齢に伴う予備能力低下のため、ストレスに対する回復力が低下した状態」を表す用語であり、要介護状態に至る前段階として位置づけられるが、身体的脆弱性のみならず精神心理的脆弱性や社会的脆弱性などの多面的な問題を抱えやすく、自立障害や死亡を含む健康障害を招きやすいハイリスク状態を意味する

- 竜王町が力を入れるべきことは「若い人たちが住み続けたい、帰ってきたいと思える住宅地をつくる」「町内外に移動しやすい交通環境を整備する」

⑦ 施策の満足度・重要度

A 重要度が高いにも関わらず、満足度が低く、優先して充実が求められている項目	
12 国際理解教育の推進	39 住宅・住環境の整備
23 雇用・勤労者福祉の推進	43 災害時要配慮者への支援
29 住み慣れた地域で生活するための支援	44 社会保障の充実
37 効果的な土地利用	46 行政経営の推進
38 道路・交通の整備	47 健全な財政運営
B 満足度も重要度も高いため、継続して充実する必要がある項目	
1 生きる力を育む就学前教育の充実	9 子どもの保健安全・医療の充実
2 確かな学力の育成をめざす学校教育の推進	10 子どもを守る防犯・交通安全の推進
3 子ども・若者育成支援の充実	18 子育て環境の充実
4 子どもの人権意識の醸成	19 健康づくり活動の推進・医療の充実
6 特別支援教育・障がい児福祉の充実	20 障がい者福祉の推進
7 子どもの体力づくり、豊かな心の育成の推進	21 防犯・交通安全の推進
8 児童福祉の充実	22 消防・防災の推進
C 満足度は低いものの重要度も低いため、他の項目の優先順位を勘案しながら、満足度を向上していくべき項目	
14 商工業の振興	40 公共施設等の整備
16 協働によるまちづくりの推進	41 情報発信体制の充実
24 生涯学習拠点施設の活動推進	48 広域行政の推進
26 男女共同参画社会の構築	
D 満足度は高く、重要度が低いため、今後場合によっては満足度の低い他の項目へ優先順位をシフトしていくことを検討する必要がある項目	
5 地域の教育力の向上	31 高齢者を守る防犯・交通安全の推進
11 豊かな体験活動の推進	32 シニア世代のまちづくりへの参加
13 農業の振興	33 生きがいづくりの推進
15 観光交流の振興	34 高齢期の人権意識の醸成
17 地域コミュニティの絆づくり	35 文化の振興
25 すべての人の人権の尊重	36 シニア世代の産業振興
27 田園空間の保全	42 文化財の保護
28 資源循環型社会の構築	45 上下水道の整備
30 シニア世代の健康体力づくりの充実	

⑧ その他のまちづくりについて

- 町内での移動手段は「自動車（自分で運転）」が8割以上と大半を占めている
- 予約式の公共交通の運行が始まった場合の利用意向は『利用する』（「必ず利用する」「たぶん利用する」の合計）と「利用しない」がおおむね同割合で、65歳以上で『利用する』が4～5割

第六次竜王町総合計画策定のための中学生アンケート調査結果の概要

《調査概要》

- 調査期間：令和元年12月
- 調査方法：中学校を通じた配布・回収（回収数294票）

《主な調査結果》

① 竜王町の愛着度

- 『竜王町が好き』（「好き」「まあまあ好き」）が8割
- 好きな理由、自慢できるところは「自然環境」「治安の良さ」「伝統文化」「アウトレットパーク」
- 好きでない理由は「公共交通の不便さ」「娯楽施設の少なさ」「高校がない」

② 定住意向

- 『住み続けたい』（「住み続けたい」「いつかは竜王町に戻って住みたい」の合計）が5割以上
- 定住したい理由は「生まれ育ったまちだから」「自然など環境が良いから」が高い
- 住み続けたくない理由は「通勤・通学に不便」「買い物など生活に不便」「活気やにぎわいがない」
- 一度離れても戻ってきたい時期は「わからない」が多いものの、「結婚や就職、子どもが生まれた時」よりも「家を買おうと思った時」「両親や祖父母との同居」の方が高い
- 将来竜王町に住むために必要なことは「遊びや食事・ショッピングに便利であきがるに集まれる場」「通勤や通学などの交通環境（電車やバス）の充実」が高い

③ 就きたい職業・仕事

- 将来、就きたい職業・仕事は「オフィス分野」「子育て分野」
- 男性は「オフィス分野」「ものづくり分野」、女性は「医療・保健分野」「子育て分野」「販売分野」

④ 地域活動

- 「現在、参加している」が4割以上で、竜王町が『好き』であるほど高い
- 自分たちが取り組むべきことは「防災・防犯活動」「自然保護・環境保全」「子育て支援」

⑤ 竜王町の将来像

- 希望する竜王町の将来像は「通学や買い物など、町内外への交通の便利なまち」「互いに助けあい、人権を尊重する（大切にする）まち」
- まちづくりで力を入れるべきところは「交通の利便性の向上」「災害に強い安全・安心なまちづくり」「若者が帰ってきたい、住み続けたいまちづくり」

第五次竜王町総合計画施策検証結果の概要

《調査概要》

- 調査方法：各施策の進捗状況を検証するため、担当課による調査シート記入、聞き取り調査を実施

《総合的評価の結果》

① 計画全体の評価

- 全 48 施策の達成度を点数化すると全体評価は 100 点満点中 60.6 点
- 施策の 25%が「3 あまりできていない」

評価	点数	内 容	施策件数	割合(%)	点数化(点)
1	100 点	十分できている	4	8.3	400
2	66 点	ややできている	32	66.7	2,112
3	33 点	あまりできていない	12	25.0	396
4	0 点	まったくできていない	0	0.0	0
		合計	48	100.0	2,908

② 分野別の評価

評価	スクスク わくわく 子ども世代編		バリバリ 子育て・働き盛り 世代編		イキイキ ゆうゆう シニア世代編		まちの 基盤づくり編		確かな 行政力編	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
1	2	16.7%	1	6.3%	1	12.5%	0	0.0%	0	0.0%
2	8	66.7%	9	56.3%	6	75.0%	7	77.8%	2	66.7%
3	2	16.7%	6	37.5%	1	12.5%	2	22.2%	1	33.3%
4	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
計	12	100.0%	16	100.0%	8	100.0%	9	100.0%	3	100.0%

《重点プロジェクトの評価》

- スキヤキプロジェクトなど分野横断的な取組により様々な相乗効果が生まれ、交流人口と活動人口によるにぎわいの創出にもつながっている
- 定住者を受け入れる住宅地とそのインフラ整備も着実に進みつつある一方、地域コミュニティの希薄化への対応として地域を支える担い手の育成が急務

《分野別施策の評価》

① スクスク わくわく 子ども世代編

- 基本施策1 生きる力を育む就学前教育の充実 **実施状況評価:2**
- 基本施策2 確かな学力の育成をめざす学校教育の推進 **実施状況評価:2**
- 基本施策3 子ども・若者育成支援の充実 **実施状況評価:2**
- 基本施策4 子どもの人権意識の醸成 **実施状況評価:2**
- 基本施策5 地域の教育力の向上 **実施状況評価:3**
- 基本施策6 特別支援教育・障がい児福祉の充実 **実施状況評価:1**
- 基本施策7 子どもの体づくり、豊かな心の育成の推進 **実施状況評価:2**
- 基本施策8 児童福祉の充実 **実施状況評価:2**
- 基本施策9 子どもの保健安全・医療の充実 **実施状況評価:1**
- 基本施策10 子どもを守る防犯・交通安全の推進 **実施状況評価:2**
- 基本施策11 豊かな体験活動の推進 **実施状況評価:3**
- 基本施策12 国際理解教育の推進 **実施状況評価:2**

■「基本施策6 特別支援教育・障がい児福祉の充実」「基本施策9 子どもの保健安全・医療の充実」が「1 十分できている」となっており、主な成果は竜王町ふれあい相談発達支援センターの取組や子ども医療費助成の充実

■「基本施策5 地域の教育力の向上」、「基本施策11 豊かな体験活動の推進」が「3 あまりできていない」となっており、主な課題は子どもを支援する人材の減少によって、地域の学びや体験の場の確保が困難となっている

② バリバリ 子育て・働き盛り世代編

- 基本施策13 農業の振興 **実施状況評価:1**
- 基本施策14 商工業の振興 **実施状況評価:2**
- 基本施策15 観光交流の振興 **実施状況評価:2**
- 基本施策16 協働によるまちづくりの推進 **実施状況評価:3**
- 基本施策17 地域コミュニティの絆づくり **実施状況評価:3**
- 基本施策18 子育て環境の充実 **実施状況評価:2**
- 基本施策19 健康づくり活動の推進・医療の充実 **実施状況評価:2**
- 基本施策20 障がい者福祉の推進 **実施状況評価:2**
- 基本施策21 防犯・交通安全の推進 **実施状況評価:2**
- 基本施策22 消防・防災の推進 **実施状況評価:3**
- 基本施策23 雇用・勤労者福祉の推進 **実施状況評価:2**
- 基本施策24 生涯学習拠点施設の活動推進 **実施状況評価:2**
- 基本施策25 すべての人の人権の尊重 **実施状況評価:2**
- 基本施策26 男女共同参画社会の構築 **実施状況評価:3**
- 基本施策27 田園空間の保全 **実施状況評価:3**
- 基本施策28 資源循環型社会の構築 **実施状況評価:3**

■「基本施策13 農業の振興」が「1 十分できている」となっており、主な成果は集落営農の法人化の進展や、近江牛の肥育頭数の増加、観光農園の活性化

■「基本施策16 協働によるまちづくりの推進」「基本施策17 地域コミュニティの絆づくり」「基本施策22 消防・防災の推進」「基本施策26 男女共同参画社会の構築」「基

本施策 27 「田園空間の保全」「基本施策 28 資源循環型社会の構築」が「3 あまりできていない」となっており、主な課題は地域活動の担い手不足や、水害等への備え、環境保全に向けた取組、男女共同参画の推進に向けた住民の意識改革

③ イキイキ ゆうゆう シニア世代編

基本施策 29	住み慣れた地域で生活するための支援	実施状況評価:1
基本施策 30	シニア世代の健康体力づくりの充実	実施状況評価:3
基本施策 31	高齢者を守る防犯・交通安全の推進	実施状況評価:2
基本施策 32	シニア世代のまちづくりへの参加	実施状況評価:2
基本施策 33	生きがいづくりの推進	実施状況評価:2
基本施策 34	高齢期の人権意識の醸成	実施状況評価:2
基本施策 35	文化の振興	実施状況評価:2
基本施策 36	シニア世代の産業振興	実施状況評価:2

- 「基本施策 29 住み慣れた地域で生活するための支援」が「1 十分できている」となっており、主な成果は地域包括支援センターを中心とした高齢者本人とその家族の支援、認知症対策の推進
- 「基本施策 30 シニア世代の健康体力づくりの充実」が「3 あまりできていない」となっており、主な課題は高齢化が進む中で、健康づくりや介護予防に力を入れる必要性が高まっていること

④ まちの基盤づくり編

基本施策 37	効果的な土地利用	実施状況評価:2
基本施策 38	道路・交通の整備	実施状況評価:2
基本施策 39	住宅・住環境の整備	実施状況評価:3
基本施策 40	公共施設等の整備	実施状況評価:2
基本施策 41	情報発信体制の充実	実施状況評価:2
基本施策 42	文化財の保護	実施状況評価:2
基本施策 43	災害時要配慮者への支援	実施状況評価:3
基本施策 44	社会保障の充実	実施状況評価:2
基本施策 45	上下水道の整備	実施状況評価:2

- 9 施策中 7 施策が「2 ややできている」となっており、主な成果は竜王町コンパクトシティ化構想に基づくまちづくりスタート
- 「基本施策 39 住宅・住環境の整備」「基本施策 43 災害時要配慮者への支援」が「3 あまりできていない」となっており、主な課題は市街化調整区域などで新たな住宅地の確保が困難、災害時避難行動要支援者名簿への登録が少ない

⑤ 確かな行政力編

基本施策 46	行政経営の推進	実施状況評価:2
基本施策 47	健全な財政運営	実施状況評価:3
基本施策 48	広域行政の推進	実施状況評価:2

- 3 施策中 2 施策が「2 ややできている」。主な課題は健全な行財政運営や適切な広域連携、総合計画の策定に合わせた行政評価の仕組みづくり

《将来像の実現に向けた取り組みの評価》

① 「ひとを育てる」取り組み

- 保育園開園や幼稚園の預かり保育の充実、認定こども園の整備検討
- 竜王町子ども療育事業所「たっぴー」開所による早期からの療育による健やかな成長に向けた支援
- 中学卒業までの医療費無償化、子育てに不安を感じる保護者や若い世代の情報の孤立化を防ぐため子育て応援サイトによる情報提供
- 小中学校における英語教育の充実、国からの教育課程特例校の指定。
- 小中学校 35 人学級実施によるきめ細かな学習・生徒指導、小学校を中心に「徹底反復学習・竜王チャレンジタイム」による「生きて働く基礎基本」の力の定着と学ぶ力の向上
- 竜王小学校コミュニティ・スクール立ち上げなど、地域に開かれた学校づくりや学童保育所の開所、小中学校施設の改修など、学校活動中や放課後の安心・安全な環境確保
- 公民館における生涯学習の充実による地域活動や学校支援を担う人材の育成
- 健康課題である「糖尿病対策」に力を入れるとともに、ベジ7チャレンジや健康推進員の活動支援、地区担当保健師による活動推進など、地域に根ざした健康づくり
- 住み慣れた地域でいきいきと暮らし続けられるよう、認知症対応型グループホーム等の整備や保健・医療・介護等の専門家の連携による支援体制の強化、介護・障害福祉サービスの充実、就労等の社会参加の促進など、地域生活を支援する取り組みの推進

② 「みんなで煌く」取り組み

- 滋賀竜王工業団地や雪国まいたけ、インター周辺町有地への企業誘致により 1,000 人規模の雇用創出
- アウトレットモールでの「竜王まるしえ」の定期開催による集客力を活かした本町の PR
- 町内 2 つの道の駅の重点道の駅認定や農業をはじめ産業全般の魅力を竜王まるごと「スキヤキ」プロジェクトを通じて全国に PR
- 地域で自主的にまちづくりを行う人や団体等に対する補助や表彰による活動の促進・拡大
- 持続可能な地域づくりに向けた自治会への支援など、協働のまちづくりや行政との情報共有

③ 「交竜の郷づくり」の取組

- タウンセンターエリアにおける健康づくりや学習活動、地域活動、交流活動等の拠点など、まちの中心部としての機能充実
- 近江八幡消防署竜王出張所の開所、地域安全パトロールの強化や竜王安心ほっとメールによる防犯・防災情報の提供、日野川改修や災害時要配慮者支援マニュアルの運用など、安心・安全なまちづくりに向けた体制の強化
- 恵まれた自然環境を将来に残すため竜王町環境基本条例制定など環境保全に関する取り組み推進
- 民間活用による集合住宅の建設を通じた住まいの確保、町有地の有効活用による社員寮や集合住宅の整備
- 「地域おこし協力隊」採用による地域産業や地域活動の活性化
- 効率的で安定した行政サービスの提供や、災害時に対する強固な行政基盤確立のため、県下6町による滋賀県町村行政情報システム共同利用事業など、行政サービスの多様化、高度化のための様々な分野における連携